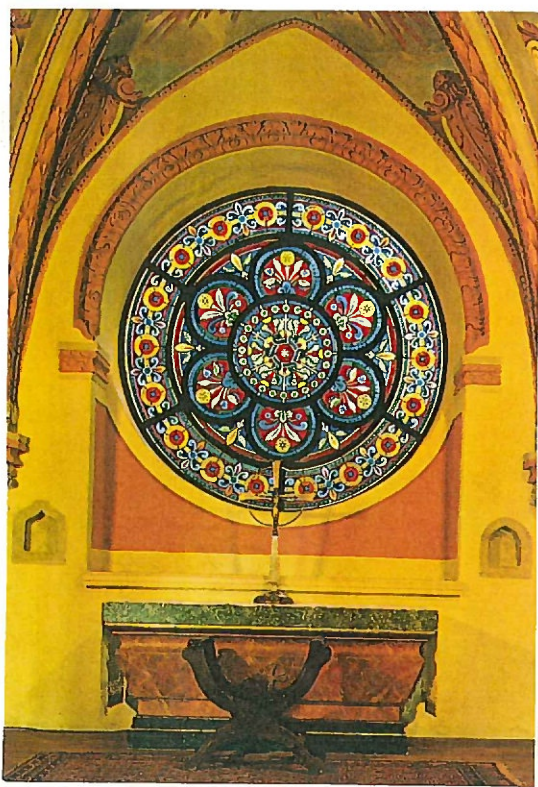


2014年(平成26)6月

カルメル 靈性センターニュース



Cistercian Abbey Heiligenkreuz, Lower Austria,
founded 1133, chapter-house

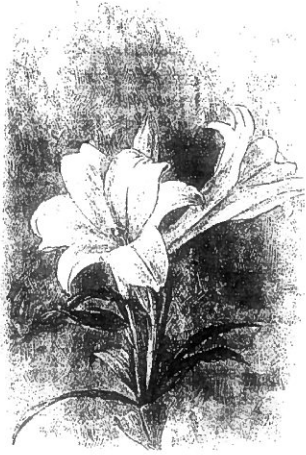
2014年6月

299号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二巻

第五章 自分を反省する

3 神は唯一の幸せ

あなたが、世俗のことすべてを、自分から切り離すなら、大きな霊的利益を得る。しかし、何か世俗のことに気をつかえば、大きな損害を受けるであろう。ただ神と、あるいは神に関係のあるものでないかぎり、あなたはどんなものも、偉大だ、高尚だ、好ましい、快いなどと思ってはならない。被造物から受ける慰めは、どんなものも空しいと考えなさい。神を愛する靈魂は、神よりも劣るものを、ことごとく軽視する。神だけが永遠であり、広大無辺であり、すべてを満たすものであり、靈魂の慰めであり、心の真の喜びである。

第六章 正しい良心の喜び

1 内的な平静さ

善良な人が誇るべきものは、正しい良心の証である。正しい良心を保ちなさい。そうすれば、喜びが尽きないであろう。正しい良心は、いろいろな出来事を耐え忍ぶ力を与え、逆境のなかにあっても、いつも喜んでいられる。それに反して、不正な良心はいつも恐れと不安に満たされている。あなたの良心にやましいところがないなら、あなたは快く休めるだろう。善をおこなった時以外は、満足するな。悪人は、真の喜びを味わえず、心の平和も知らない。「悪人には平和がない」(ゲヤ 48・22, 57・21)と主が言われた通りである。もし悪人が、「われわれは平和だ、われわれには不幸が起こらない、誰がわれわれに損害を加え得ようか」(ミカ 3・11)と言ったとしても、その言葉を信じてはならない。なぜなら突如として神の怒りがあらわれ、彼らのおこないはすべて無となり、「その計画は煙のように消えてしまうからである」(詩編 146・4)。

日々神と親しく生きるには

— 6 —

聖霊の息吹のうちに

新しく生まれ変わるには

貧しいながらに

神に信頼して すべてを

委ねなければなりません

～幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd



私たちは「新たに生まれ変わりたい」という願いを
日々の生活の中で、心の底に持っています。

新しいことをはじめてみたり、
過去の過ちや失敗を忘れる努力をしたりして、
人それぞれ違った生まれかわり方を模索します。

けれども神に新たに生まれかわるには、
聖霊の息吹、すなわち真理の霊・愛の霊によって、
新たに造りなおされなければなりません。

そのためには

自分の貧しさ（あやまち・失敗・恐れ）を受け入れ
貧しいながらに神の愛を信頼する必要があります。

「私たちが罪人であったとき、おん子を私たちに遣わしてくださった」
父なる神の愛を信頼して、
その慈しみ深い神にすべてを委ねるのです——川の流れのように。*

6月は1日、主の昇天、8日聖霊降臨、15日三位一体、22日キリストの聖
体、29日聖ペトロ聖パウロ使徒などの祝日の恵みの日々が続きます！

伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィイ）

* 『いのりの道—写真・文』より、サン・パウロ社

人を赦す (9)

くのり
九里 彰

コンプレックス（複合感情）からの解放は、信仰の世界に入ることによって可能となる。なぜなら、自他の優劣を競い合う人間の世界、「この世」の評価をはるかに越えた神の無限の愛の世界を知るからである。

その意味では、洗礼を受けることによって、秘跡的には、すべての人がコンプレックスから解放され、自由な境地に入るはずなのだが、そうはならない。それは、その人の心の中に「この世」の価値観、「肉」の思いが深く入り込んでいるからである。

キリスト者になったにもかかわらず、相も変わらず、この世の名誉や社会的地位にこだわっている人がいる。富や財産を無意識の内に神のように崇めている者もいる。美味しい食べ物や美しい着物に執着し、それらを追い求めて、恥じない者もいる。神の栄光、偉大さ、美しさの前に、この世の一切は色あせてしまうはずなのだが、そうはならない。

とはいえ、肉にも頼ろうと思えば、私は頼れなくはない。…私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。…しかし、私にとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、私の主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見なしています。キリストのゆえに、私はすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。（フィリ 2・4-8）

この世の物ごとを「塵あくた」と見なすことができれば、その塵あくたの一つを、鬼の首を取ったように誇ることはできなくなるだろう。金メダルやノーベル賞を取ることは、確かに至難の業である。世界中の選手や研究者が全身全霊を挙げて努力し、しのぎを削っている。その頂点に立つには、恵まれた才能や素質、並々ならぬ努力と幸運が求められている。だが、神の前にすべての人間の業は、地球が大宇宙の中の砂粒であるように、ちっぽけなものにすぎない。金メダリストであろうと、ノーベル賞受賞者であろうと、だれも、その業を神の前に誇ることはできない。パウロは言う、「誇る者は主を誇れ」（Cf. エレ 9・23）と。

「十一人の弟子たちはガリラヤに生き、・・・イエスに会い、平伏した。しかし、疑う者もいた」(マタイ 28, 16-17)。

御昇天の祭日に読まれる福音には、一つ気になる点があります。「イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた」との指摘です。実に、ユダヤ人たちや、イエスに敵対する者たちの中に、あるいは、裏切り者のユダならいざしらず、十一人の弟子たちの中に、疑う者もいたと言うのです。何を、疑ったのでしょうか。今、お会いしている方が、復活したイエスであることを、あるいは、経験的に知っている重力の法則に逆行して、天に登られるイエスの昇天をでしょうか。そうかもしれません、しかし、根本的には、わたしのために、わたしの救いのために、十字架の死さえも受け入れてくださったイエスの愛を、そして、独り子たもうほどの御父の愛を疑ったというべきではないでしょうか。

人類の始まりにも、やはり、神の愛への疑い、神の愛への信頼の心よりは、神の愛を疑う心、神への信頼の欠如があったと、聖書は言っています。エデンの園でのアダムとエバのことです。神は、彼らに一つの禁止をされました。「園のすべての木からとって食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べではない」と、しかし、この木の実は、おいしそうです。惑わすものが来て、神がそのような禁止をしたのは、この木の実を食べると賢くなり、神のようになる、そうされたら神が困るので禁止したのだとささやき、神への猜疑心を吹き込みます。アダムとエバも、自分では神の言葉の理由が見通せない、しかし、きっと愛に満ちた、わたしたちを本当の生命に導くものだ、信じ、神の言葉に信頼していたらよかったのですが。しかし、神のお言葉に信頼するよりは、神のお言葉のうちに秘められた愛の真意を疑うことになってしまった。このようにして、神への無条件の信頼という樂園から自らを締め出し、自分の力では、二度と、戻れなくなってしまったのです。樂園、それは、キリストにおける神の愛の選びだ、そしてこの選びへの信頼する心だ とある神学者が言っています。「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、ご自分の前で聖なるもの、汚れのないものにしようと、キリストにおいてお選びになりました」(エズラ 1, 4)。イエスの御昇天、それは、人間が罪をもって混乱させた神の愛の計画が、回復されただけではなく、それ以上にすばらしいものとして完成されたとの宣言です。この宣言に、わたしたちは全幅の信頼をもって答えるのです。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」。 ルカ渡辺幹夫

聖霊降臨の主日 (A)

みことばのひびき

(ヨハネ 20:19~23)

本日、私たちは聖霊降臨の主日を祝います。この日は聖霊が弟子たちに降り、教会が設立された日です。聖霊は臆病な弟子たちの上に舌のような炎の形で降り、弟子たちを真のイエスの伝達者に変えました。聖霊を受けると弟子たちは大胆に出かけていき、エルサレムやその他の場所で全ての人に説教しました。この日、イエスはご自分の霊の中で生きることの自由を知るように望まれます。この祭日はまた、御父と御子の霊を弟子たちに送ると約束されたその約束をイエスが果たされたご復活の神秘の頂点です。この祭日はまた、聖霊が継続している現実であり、永久に教会とともにあり、日々私たちの生命に触れていくことを示します。私たちはこの日を祝い、聖霊の恵みを悟り、神の生命、息、エネルギーが全ての信者の中に生きていることを知ります。このお祝いは、同じ霊が私たち一人ひとりに与えられ、皆一つの霊により洗礼を授かり一つの体となり、イエスを死から復活させた霊が私たちをも復活させることを教えてください。

聖霊降臨の祭日は、教会の始まりの印しです。霊の働きは初代教会で理解されたことの核心でした。聖霊は初代教会の宣教師たちを教え、救いの宣教に導きました。新しい信仰への変換をもたらし、殉教の時に力を与え、聖パウロの旅行への着想の源となり、異教徒を教会に受けいれました。神の救いの働きの全ては、世の終わりまで、聖霊の愛の働きによります。これらの点を考え、聖霊の役割を考慮して、第二ヴァチカン公会議は聖書にでてくる様々なものから、教会の四つの姿を選び出しています。新しい神の民、キリストの体、聖霊の神殿、そして救いの秘跡です。教会を通して生活の中で聖霊の働きの恵みを受けるとき、私たちはいつでも小さな聖霊降臨を経験します。自分の小さな聖霊降臨に協力するとき、私たちは初代のキリスト教徒が経験した聖霊降臨の素晴らしい経験をすることができ、霊の命の中で十分に生きることが出来ます。聖霊は、散らされ、分けられていた民を集め、和解させます；最初の創造に変え、そこで神は人間と平和に住まわれます。

本日の祭日は、聖週間以来記念し続けている数々の神秘を完成し、イエスの受難、死去、復活、昇天は御父と御子の霊を弟子たちに送ることで頂点に達します。聖霊降臨の祭日は、キリストの「神秘」による私たちの生命への神の特別な介入です。継続している現実であり、毎日私たちの生命に触れているものです。今週、教会における聖霊の目的を考えてみましょう。主である神によって送られているというその目的に従って、聖霊は私たちを導き、教えることができます。聖霊の力を通して、赦される恵みと赦す恵みを求めます。イエスが弟子たちに霊の新しい生命で権能を与えたように、私たちは同じ霊から平和の贈りものを待ちのぞみます。

(Sr. Paulina)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ 3, 16)。

三位一体の祝日を祝うことは、信じる者にとっては、イエス・キリストにおいて開示されたままに神の愛を宣言することを意味します。イエスの生涯、言葉と業を通して、わたしたちは、愛の交わりとして、人類に近いものとなる神を受容します。神は、創造する英知として、啓示する言葉として、人類のあやまち、逸脱を赦し、新しい生命の交流を主導権を持って始める愛として、ご自分を知られるようにされるのです。御父を知ることは、ヨハネにとっては、御子において人類を包摂した愛を認識し、受容することを意味し、そして、この愛を認識し、受容する能力は人間の内面から派生するものではなく、神の無償の恵みの働き、聖霊によることを意味しています。信じるとは、何を、どなたを信じるのかという、信じる対象の認識に関することでもあります。また、この対象を信じる能力が人間に内在するものではなく、神からの恵み、賜物、支えに支えられた飛躍によるものであることを自覚することでもあるのです。

愛によって活性化される人間の生命、また、命の真実の意味の深さを発見し、実現化してゆくように活性化するのも愛。永遠の命に続く今日の命を生きる道とは、これです。永遠の命とは、今日の命を神の永遠の計画を実現する方向で生きることが可能とするものです。救いとは、この可能性の中に入れられていることであり、この可能性を現実化する生き方、イエスに従い、イエスのように十字架の上に死ぬことを受け入れることであり、その具現化は、兄弟への愛の実践にあるのです。

それで、永遠の生命とは、第一に、この世の生命が終わった後の問題ではなく、この世の生命を永遠の生命に向けて活性化して生かされることにあります。無論、その完成は、この世にはない、未来の日を待たなければならないのですが、「愛するものたち、わたしたちは、今すでに神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、その時御子をありのままに見るからです。御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます」(1ヨハネ 3, 2-3)。信仰、それは、認識の問題であるよりは、生きることの線上に、今日の命をイエスのように、御父に向けての飛躍として、聖霊の息吹に支えられて、生きることにあります。 ルカ渡辺幹夫

キリストの聖体 (ヨハネ6:51-58)

今日わたしたちはキリストの聖体と御血の祭日を祝います。この特別な祭日は、わたしたち一人ひとりの救いのために極度の苦しみを顧みず、十字架上でご自分のいのちを差し出されたキリストの愛を自分自身のものでいただき、この記念としての聖体祭儀を行うよう命じられたキリストの聖体に対して、真心からの礼拝と賛美、感謝を捧げる日です。

聖体の祭日は、洗礼の恵みによってキリストのいのちをいただいているキリスト者たちが、とても大きな宝を持っていることを思い起こさせます。イエスは聖体を通して、人がこの地上で経験し得る最大限のイエスとの親密な交わりをお許しになります。ベネディクト 16 世前教皇は説明なさいました、“これは聖体を拝領するときわたしたちの内に本当に起っていることです。わたしたちはイエスご自身の中に引き寄せられ、イエスとの内的な一致に、そして最後には内的にイエスと似た状態へと引き寄せられるのです”。イエスは仰せになりました、“わたしは天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。” こうして人類の罪のためにイエスはご自身のいのちを差し出されたのです。最後の晩餐のとき、弟子たちに聖体祭儀において、聖体がどのように礼拝され賛美されるべきか、そのやり方をお教えになり、この聖体のうちに人となられたキリストは現存し、この世の終わりまで彼らと共にいてくださることを話してくださいました。

イエスご自身の肉を食べ、イエスご自身の血を飲むようにと命じられる今日の福音のメッセージは、わたしたち自身の真の生き方を、イエスの教え、イエスの視点、イエスの価値観、イエスの考えに当てはめ同化させて行くよう命じています。聖パウロのように、“生きているのはわたしではなく、わたしのうちに居られるキリストである”、とわたしたちも言うことが出来るようにすべきです。これこそキリストの御体と御血を食することの根本の意味です。考え方や生き方においてイエスと完全に一致することです。次に、もし本当にキリストに属しているなら、わたしたちは意識して活発にキリストの神秘体の仲間たちに心を開き、愛し合い、仕え合い、気遣い合い、協力し合ってイエスの生き方の証し人となる筈です。聖体祭儀に参加することによって、わたしたちはキリストの御体と御血の聖体となり、わたしたちの内的いのちを隣人と分かち合います。聖体祭儀は真に一つのしるしです。よい聖体祭儀は生きている共同体のしるしです。同時に聖体祭儀は、ご自身をわたしたちの食べ物、飲み物として差し出されたイエスの神性に参与することでもあります。

共同体によって捧げられるこの共有の犠牲の食事、聖体祭儀に、犠牲、祭壇、司祭であるイエスは現存されています。イエスは世を救うための特別な供え物となってご自身を天の御父に差し出されます。このイエスの奉献は、階級、信条、言語の違いを超越していますから、わたしたちは皆主をいただくのにふさわしく自分を準備し整えること、これが大事なことです。聖体の祭日は、イエスがわたしたち一人ひとりをどれほど大切に思い、深く親密に交わりたいと望んでおられるかを、静かに思い巡らし、主の許に留まるときです。 (Sr. Paulina)

「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない」(マタイ 16, 18)。

このマタイの箇所に関連する場面がイザヤ書(イザ 28, 14-18)にあります。イスラエル、ユダは、北にアッシリア、南にエジプトの二大強国には含まれていなかった弱小国家でした。それで、アッシリアの危機に対してエジプトと同盟関係を結んで、その援助のもとに窮地を何とか脱出しようとしています。しかし、この同盟は、より一層の危機を孕み、イスラエルの消滅をもたらす死と陰府との同盟となるのは明らかです。神は、このような人間の知恵が求め、造りだした袋小路から、恵みによってイスラエルを解放しようとしています。「それゆえ、主なる神はこう言われる。『わたしは一つの石をシオンに据える。・・・お前たちが死と結んだ契約は取り消され、陰府と定めた協定は実行されない。』」。さて、今日のイエスのペトロへの宣言の舞台、「フィリポ・カイサリア」はガリラヤ湖に流れ込むヨルダン川の源流の地、異邦人の地と言われるガリラヤの最深部地方です。「カイサリア」は「ローマ皇帝(カエサル)の町」を意味しますが、ここには異教の神々の神殿がありました。マタイはこの地でのペトロの信仰告白を、自分たちの教会が、ユダヤ教やローマの宗教などに取り囲まれている中で、キリストへの信仰を宣言していることと重ね合わせているのかもしれませんが。

イエス自身からの直接的な問い、「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」は、他人の考えではなく、実際にイエスに出会い、イエスのそばにいて、イエスのことばと行動に触れてきたあなたがたはどう思うのか? ということでしょう。「教会で教えられたから」とか「キリスト教の教えの本で読んだから」というレベルではなく、わたしたちもそれぞれ、「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問われることがあるのではないのでしょうか。わたしたちはイエスとどのように出会い、わたし自身の言葉として何と答えることができるのでしょうか。ペトロの答えは「あなたはメシア、生ける神の子です」というものでした。「メシア」は、ギリシア語原文では「キリストス(=キリスト)」であり、本来の意味は「油注がれた者」ですが、ユダヤ人たちにとっては、神が遣わされる救い主を指す言葉です。また、「生ける神の子」とは、無論、「神は生きておられる」ということは旧約聖書で繰り返し強調されていたことでしたが、異邦人たちにも理解しやすいものです。ルカ 渡辺幹夫

夏目漱石の「こころ」が新聞の連載小説として登場して、今年は丁度100年になるのだそうです。それを記念して100年前の連載開始の4月20日から、当時のままに110回に分けて再連載するという記事を読み、興味津々期待に胸をときめかせました。

「こころ」はその昔父の本箱にあったのを高校入学の頃に読みました。当然旧かなづかいであり、昔の漢字です。此の度の連載は、新かなづかいに改訂された岩波文庫版を使うということでした。私たちの「てふてふ」「しませう」の時代は遠くなり、現在では旧かなづかいは無理なのでしょう。しかも勉強ならいざ知らず小説を楽しむのですから。

多感な時代に読んだ「こころ」は感銘を受けました。読後感など日記に書いたりしたはずなのですが、その類はすべて処分してしまったので詳しくは定かではないのですが、良心の呵責が自分のことのように苦しかったこと、それからまた、登場人物たちのいわゆる知的生活というのでしょうか、生きることを考えつめ突きつめて、自己の深みへと向ける暗い情念といったものに惹きつけられ憧れを抱いたことを覚えています。自死という極端にも心を高ぶらせました。

いよいよ始まった100年ぶりの連載は、なんとも古めかしい熟語や言いまわしなどが格調高く感じられ、好ましい雰囲気のただようものでした。

わくわくして読み始めたのはよかったのですが、実は数回を経た頃にはやる気持ちをおさえきれず、岩波文庫を買いに走り二晩三日で読了。連載を日々楽しむつもりだったのにと口惜しい気もしていますが、それでも新聞連載は毎朝待ちかねる思いで頁を開きます。

私が小学校時代を過ごした旧本郷区、小石川区界隈が舞台であり、当時私たち子どもの遊び場でもあった小石川植物園などが登場したりと、私自身の懐古の情を誘うこともこの作品に親しみをもっていることのひとつです。

教科書にもなじみ深い名作です。

主題というとき要点は種々あるかと思いますが、自分の内部の罪ともいえるべきエゴイズム、絶望は、おそらく誰も皆が抱えもつ問題として深刻であり、小説として大変に魅力的です。人間としての普遍のテーマなので、話には日常によくあることとなるのでしょうか、かけがえのない友を思いもよらない残酷さで裏切り、追いつめ陥れていくという、自分では制御できない自分の心が描かれます。良心の呵責に苛まれながら、心の内では誰か止めてくれないか

と懇願し、しかし自分では止めることができません。　すべてを打ち明け、彼の前に

手をついて謝りたい衝動に突き上げられ明日こそと決心するのですが明日では遅く友は自殺します。　この出来事を解決できないまま悩み続ける主人公は、自分で自分を救うことのできない絶望をもって、自らも自死に至るのです。

私は今回読んで或る側面、余談のような側面に心留めたのですが、それはこの自死する二人は、どちらにとっても抜き差しならないほどの互角の能力と互角の誠実さをもっているということです。云ってみれば真に対等の稀有な得難い友好関係なのです。　だからこそ読む者にとって裏切りとかエゴイズムということに不均等感が生ずることなく、テーマを純度高く鮮明にしているのではと思いました。

主人公の妻は夫の苦悩を感じとり心配していますが（実は妻はそれと知らずに事件に深く関わっている人物です）主人公は自分の苦しみを妻にも打ち明けません。　明かさない理由は妻が「己の過去に対してもつ記憶をなるべく純白に保存しておいてやりたい」というものでした。

読み終わり私にとってことのほか深く響いた言葉がありました。

「私は寂寞でした」という主人公の述懐の一言です。「何処からも切り離されて世の中にたった一人」である自分を心の底に悟るのですが、この事もしかしたら私たちもいつかどこかで感じとったことがあるのかもしれませんが。

しかし、それにしても主人公の妻もまた、結果として何という寂寞を負うことでしょうか。

このような小説を読むと気持ちの上では必然的に救いへの希求となるわけですが、小説のエゴイズムを宗教で救ってしまっただけでは魅力が台無しのように思います。　思い出すのは或るカトリック作家が、自身の創作した主人公の悲惨に耐え切れず、物語の中で主人公に告解させてゆるしを与えてしまいたい誘惑に苦しんだという話です。　小説創作と信仰の緊張関係、その苦しみに私は強く心が惹かれます。　救い主キリストや告解の秘跡をとにかく安易に身勝手にひきずり降ろしたりせず、人間という、私という荒野の闇に身を置き、じつとくまらしかないでしょう。

「すべてに於いてすべてであるお方」が必ず在るということその兆しは、自らの暗闇のただなかで目を凝らし、心を開くことで、この身に知らされるのかもしれませんが。

小説「こころ」もそれを指し示しているように思います。

上等な小説を読みました。

いのちの言葉 6月

わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる。

(マタイ 28・20)

イエスの生涯を語るマタイ福音書の初めには、イエスがインマヌエル、すなわち「私たちと共におられる神」(*1)であると記されています。そして福音書の最後まで、天に戻られた後もいつも私たちと共にいてくださるといふ、イエスの約束の言葉が引用されています。イエスは、世の終わりまで、私たちと共にいてくださる神です。

全世界に行って福音を告げ知らせる使命を弟子たちにゆだねられた後、イエスはこのみ言葉を語っておられます。弟子たちを派遣するのは、狼の群れに羊を送るようなものであり、彼らが反対や迫害に遭う(*2)ことも、イエスはよくご存じでした。それゆえイエスは、宣教の使命を果たす弟子たちと共にいることを望まれ、まさに世を去られる時に、とどまる約束をされるのです。弟子たちは、その目でイエスを見ることも、声を聞くことも、触れることもできなくなりますが、イエスはこれまでと同様、いえ前にもまして、弟子たちの間にいてくださるのです。実際、イエスはそれまではカファルナウムや湖、山やエルサレムなど、一定の場所におられたでしょうが、これからは、弟子たちのいる所なら、どこにでも共にいてくださるのです。

イエスは、煩雑な日々の生活を送る私たち皆のことも、心にとめてくださいました。愛そのものが受肉された方イエスは、「いつも人々と共にいて、あらゆる心配を分かち合い、アドバイスし、一緒に道を歩き、家に入り、共にいることで、彼らに再び喜びを与えたい」と思われたことでしょう。

それゆえイエスは、私たちと共にとどまることを望まれました。私たちが彼の存在を身近に感じ、その力と愛を感じるよう望まれたのです。

ルカ福音書では、イエスが天に昇られるのを見た後、弟子たちは「大喜びでエルサレムに帰った」(*3)と記されています。なぜでしょうか。イエスのみ言葉が真実であるのを経験したからでしょう。

私たちも、イエスの約束を本当に信じるなら、喜びに満ちあふれるでしょう。

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

これは、弟子たちに向けられたイエスの最後の言葉であり、彼の地上での生活を締めくくるものです。同時に、教会の始まりを記すものでもあり、イエスは教会の中で多くの形をとって存在されます。ご聖体の中、み言葉の中、司教様や神父様の中、貧しい人、小さな人、疎外された人の中、そしてすべての隣人の中に、イエスはおられます。

中でも私たちは、一つの特別なイエスの存在を大切にしています。それはイエスご自身がマタイ福音書の中で、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(*4)と言われたことであり、これによってイエスは、あらゆる場所に存在されることを望まれます。

イエスがお命じになることを実践し、特に彼の新しい掟を生きるなら、私たちは教会の外にいても、多くの人々の間にいても、どこにいても、イエスがおられるのを経験できるでしょう。

私たちに求められているのは、相互の愛、兄弟に仕え、理解する愛、相手の苦しみ・心配・喜びを共に分かち合う愛です。すべてを覆い、すべてをゆるす、キリスト教の特徴と言える愛です。

誰もがこの地上にいるうちからイエスと出会うことができるよう、私たちもこの愛を生きましよう。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は2002年5月に発表されたものです。

- * 1 マタイ 1・23 参照
- * 2 マタイ 10・16 - 22 参照
- * 3 ルカ 24・52 参照
- * 4 マタイ 18・20 参照

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 6月8日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 6月8日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

長崎 6月22日(日) 14:00~長崎 カトリック浦上教会 要理教室

* 詳細は各フォルム・センターまで。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (81)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

だれがこのミサを終わらせるのですか？

バエサでのヨハネ修士のミサは、敬虔な信者たちによってとても注意深く行われていました。

内的な衝動が聖人を襲い、彼が言っていたように、内から彼を突き動かし、ミサを終わらすことができないほどとなることもありました。ある日、パンとぶどう酒を拝領した後、「ミサを進めることができなくなり、カリスを取り、祭服を脱ぐため香部屋へ行こうとしました」。

会衆の一人が、起こったことにはっきり気づき、彼女のそばを通った時、「彼の祭服をそとつかみ、言いました。

『だれがこのミサを終わらせるのですか。天使がこのミサを終わらせるために来ますように』。この言葉によって聖人は、我に返り、祭壇にもどり、ミサを終わらせました」。

マルティン・ボアネルゲス修士

ボアネルゲスのことでは、前から被昇天のマルティン修士のことに触れようと思っていました。聖人は、彼にそのようなあだ名をつけませんでした。次の出来事によればそうつけるのがふさわしいでしょう。

「ある日、ヨハネ修士は、重い罪を犯した一人の修道士を、きわめて穏やかに叱責しました」。マルティン修士は、聖人のところへ行き、神の栄光への熱情にすっかり燃え上がり、「ヨハネ修士にこう言いました。なぜ彼をもっと叱責しなかったのですか。その方がずっと彼にふさわしかったのに」。ヨハネ修士は、ますます穏やかに、彼に答えました。「よく分かっていないのだから、黙りなさい。叱責は必ずしも良い解決ではないし、叱責された者から実りを得ることもないのです。厳しく叱責された者からはなおさらです。実りの方に私たちは目を向けるべきです」。

十字架のヨハネは彼をボアネルゲス、雷の子（マコ 3・17；ルカ 9・53-55）とは呼びませんでした。確かにこの場合のマルティン修士は、ボアネルゲスでしょう。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（177）



混乱をまぬがれること

すべてのものやすべての人が私たちが異なった方向へ引っ張ってゆこうとする時、どのように私たちは心を乱さないでいられるのでしょうか。絶えず心が引き裂かれるような状態の時、どのように私たちは「混乱をまぬがれること」ができるのでしょうか。

イエスは、「あなた方の髪の毛一本も決してなくならない。忍耐によって、あなた方は命を勝ち取りなさい」（ルカ 21・18-19）と言っておられます。私たちが自分自身を知る以上にもっと深く私たちが知っておられる神に信頼する時にのみ、私たちはこの世を生きぬいてゆくことができるのです。神が私たちを一つにしてくださいと信じる時にのみ、私たちは混乱をまぬがれることができるのです。私たちのどんな小さな部分も、そう、髪の毛一本も、私たちの主の神的抱擁の中で完全に守られているという真理に忠実に踏みとどまる時にのみ、命を勝ち得ることができるのです。換言すれば、私たちが霊的生活を生き続けるならば、私たちには恐れるべきものは何もないのです。
(0915)

キリスト共に上げられることを待つこと

キリストの第二の到来を待つことと、復活を待つこととは、まったく一つの事です。第二の到来は、復活したキリストの到来であり、彼と共に私たちの死すべき体が神の栄光へと上げられるのです。イエスの復活と私たちの復活は、私たちの信仰の核心です。私たちの復活は、私たちの最愛の方がイエスの最愛の方と関係しているように、もっとも深いところでイエスの復活に関係しているのです。パウロは、この点非常に堅固な信仰を持っています。彼はこう言います。「死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずで、そして、キリストが復活しなかったら、私たちの宣教は無駄であるし、あなた方の信仰も無駄です」（1 コリ 15・13-14）。

実際、私たちが復活したイエスを待っているのは、彼と共に、神の永遠の命へと上げられるからです。イエスの復活と私たち自身の復活の展望から、彼の命と私たちの命はまったく意味を見出すのです。「キリストへの望みがこの世だけのものだったとすれば、私たちはすべての人の中で最も哀れな者です」（1 コリ 15・19）とパウロは言っています。私たちは哀れみを必要としません。なぜなら、イエスの弟子たちのように、私たちは地上の短い命の限界を越えた地平を眺め、今身体をもって生きているところのものは、一切無駄にはならないと信じているからです。
(1124)

（九里 彰訳）

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

イエスの聖テレジア列福400年記念の祝賀式典

2014年5月4日



4月21日から24日まで、アビラの国際テレジア・ヨハネセンター

(CITeS)で開催された、神秘主義に関する国際会議“信仰と神体験”は、イエスの聖テレジア列福400年を記念するさまざまな行事の中で中心的なものでした。

会議は、15ヶ国の56人の発表者による7つのシンポジウムで構成されました。現地の会場には約200人が来場し、2,000人以上のオンライン登録者がインターネット上で参加しました。

この大会には跣足カルメル修道会のザベリオ・カニストラ総長と履足カルメル修道会の総長フェルナンド・ミラン神父が出席しました。なかでもアシジのドメニコ・ソレンティノ大司教とチビタ・カトリカの代表アントニオ・スパダロ氏の参加が注目されました。

4月24日には、アビラのカテドラルでアビラ教区のヘスス・ガルシア・ブリッジョ司教の司式による荘厳ミサが捧げられました。

アルバ・デ・トルメスでは、聖テレジアの列福記念を祝って1週間の行事が催され、24日には聖女の墓がある現地の跣足カルメル修道会女子修道院で記念のミサが捧げられました。

またバチカンの列聖省の長官、アンジェロ・アマト枢機卿は、ローマにあるアビラの聖テレジアの教会で記念のミサを捧げられました。

さらに、聖テレジアが修道院を創立したすべての市では、聖女を讃えて記念の鐘が鳴らされました。

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

9月11日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
10月9日	人となられたみことば	九里 彰神父 ※
11月13日	キリストのからだなる教会	福田正範神父 ※
12月4日	無原罪のマリア	九里 彰神父 ※
2015年		
3月5日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父

2. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

7月4日	カルメル山の聖母	福田正範神父 ※
10月31日	永遠の命への憧れ 聖テレジア	九里 彰神父 ※
2015年		
1月16日	聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)	福田正範神父

3. 奉獻生活者の為の黙想会

8月1日(金)18時～	8月10日(日)	九里 彰神父 ※
8月15日(金)18時～	8月24日(日)	福田正範神父 ※
10月10日(金)18時～	10月19日(日)	福田正範神父
12月27日(土)18時～	2015年1月5日(月)	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月22日(土)15時～24日(月・振休)16時

5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

9月13日(土)15時～15日(月・振休)16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

11月1日(金)20時～3日(月)16時「慈しみの愛と祈り」

7. 祭日のミサに参加するために

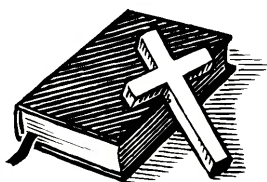
【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

8. 聖週間前の黙想会

2015年

3月19日(木) 18時～22日(日) 16時「十字架の神秘」 福田正範神父 ※

注) ※ 赤字は先月号から変更された部分です。



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会



「カルメル山の聖母」

日時： 2014年7月4日（金） 10時～16時
指導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）
場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

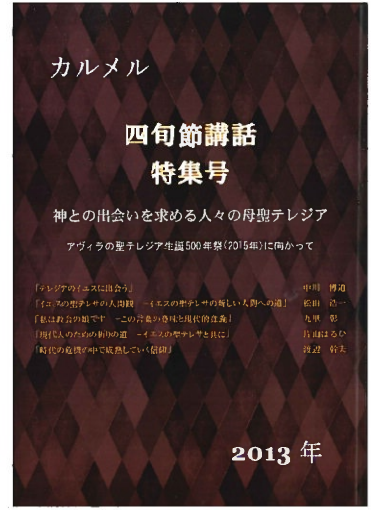
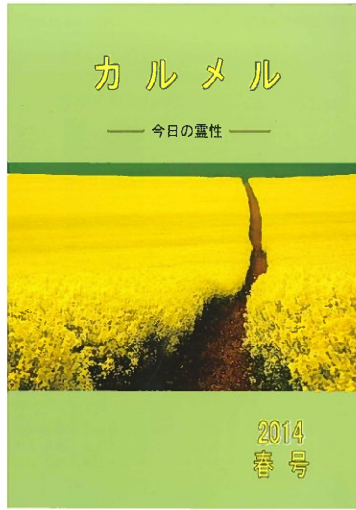
会費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・ TEL 03-5706-7355
FAX 03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・ ***黙想会の3か月前より申込みを受付します**
FAX、メール、ハガキにてお願い致します。
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

「カルメル」
今日の霊性・春号
四旬節講話特集号



2014 春 No.352

カルメル 2013 特集号
「神との出会いを求める人々の母
聖テレジア」

● 目次 ●	テレジアのイエスに出会う	中川博道	2
	イエスの聖テレサの人間観	松田浩一	12
	—— イエスの聖テレサの新しい人間への道		
	「私は教会の娘です」	九里彰	24
	—— この言葉の意味と現代的意義		
	現代人のための祈りの道	片山はるひ	37
	—— イエスの聖テレサと共に		
	時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺幹夫	51
○ 目次 ○	◎ 今年の特集 聖テレサと他の聖人たち ◎		
	自分の内に生きることなく生きる	九里彰	3
	—— テレジアの詩とヨハネの詩		
	二人の聖テレジア	伊従信子	9
	—— イエスの聖テレサと幼きイエスの聖テレサ		
	エディット・シュタインと聖テレサ	須沢かおり	18
	—— 回心とカルメルへの道		
	修道院の窓から	原造	25
	—— 背中を語る		
	聖なる冒険	ボリン・フェルナンデス	28
	—— モーセ		
	ローマ物語	高橋重幸	35
	—— ローマでの養成		
	西行と芭蕉の霊性	田畑邦治	40
	—— 「おくのほそ道」の旅から		
	老夫婦は連れだって散歩に	森みさ	47
	神が慈しまれた道	奥村一郎	53

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5＝2,300円】＋送料【700円】計3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

2014年～2015年 黙想会案内（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

7月 12日(土)～ 13日(日)	聖母マリア	中川博道神父(変更)
9月 6日(土)～ 7日(日)	神の慈しみの歌	松田浩一神父
11月 1日(土)～ 2日(日)	死についての黙想	今泉健神父中止
2015年 1月 10日(土)～ 11日(日)	神の栄光・生きている人間	松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・1日（午前10時～午後4時）

6月 7日(土)		九里彰神父
9月 13日(土)		九里彰神父
11月 29日(土)		九里彰神父
2015年 2月 7日(土)		九里彰神父

【水曜の黙想】

・1日（午前10時～午後4時）

6月 18日(水)	イエスの御心を思う	中川博道神父(変更)
7月 23日(水)	キリストの教え(神の救いへの参加)	松田浩一神父
9月 17日(水)	福音的な小さい道	渡辺幹夫神父(変更)
9月 24日(水)		
10月 8日(水)	キリストの教え(神と共に歩む)	松田浩一神父
11月 12日(水)	死者の月に祈る 人生の秋	中川博道神父(変更)
12月 17日(水)	テレサと祈り	松田浩一神父
2015年 1月 14日(水)	神の国は近づいた	今泉健神父未定
2月 11日(水)	キリストの教え(神と人間の尊厳)	松田浩一神父
3月 25日(水)	神のお告げ	今泉健神父未定

【四旬節の黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2015年 2月 28日(土)～3月 1日(日)	
3月 28日(土)～3月29日(日)	

【待降節の黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2014年 12月13日(土)～12月14日(日)	神の子の誕生	九里彰神父
---------------------------	--------	-------

【聖テレーズの黙想】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 9月30日(火)～10月 1日(水)

伊従信子師

【カルメル青年の集い】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

~~11月23日(土)～11月24日(日)~~

11月15日(土)～11月16日(日) 神の慈しみの体験(イエスの聖テレサと共に) 松田浩一神父(変更)

【一般のためのカルメルの霊性入門】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

10月 14日(火)～10月 15日(水) イエスのテレサ生誕 500 周年開始 松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】

(午後5時～午後9時)

2014年 7月31日(木)～ 8月 9日(土)

松田浩一神父

8月19日(火)～ 8月29日(金)

中川博道神父(変更)

12月27日(土)～ 1月 5日(月)

松田浩一神父

[『社会人\(働いている人\)のための霊的同伴』](#) → 別紙参照

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木) [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

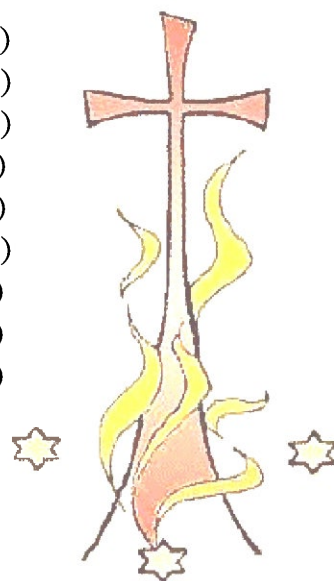
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちにされるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



2014年度 名古屋カルメル霊性センター《都会の中の一静修》

2003年から始まりました《都会の中の一静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

- 第1回静修 1月13日（月・祝） 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』
中川博道神父（上野毛修道院）
- 第2回静修 3月1日（土） 『靈魂の城』
今泉健神父（宇治修道院）
- 第3回静修 5月31日（土） 『小品集』
古川利雅神父（上野毛修道院）
- 第4回静修 7月21日（月・祝） 『私は、あなたのために生まれた』：
：人間の召命に生きる 松田浩一神父（宇治修道院）
- 第5回静修 9月23日（火・祝） 『アヴィラの聖テレジアと祈り』
Sr. Paulne（宣教カルメル会修道院）
- 第6回静修 11月3日（月・祝） 『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』
九里彰神父（本部修道院）

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分
聖テレジア幼稚園隣接)
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
- * 定員 約30名

- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 13:00～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、
(信徒の方は所属教会も記入)開催日の3日前までに、下記へご送付ください。

なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会
オリエンス・セミナー

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

- K3 6/13 (金) -6/15 (日) **研修会** 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子御受難会
K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会
S2 10/5 (日) -10/11 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
N3 10/26 (日) -11/1 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会

2015年予定

- K1 1/17 (土) -1/23 (金) 東京・小金井・聖霊会
M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会
N1 2/23 (月) -3/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
K2 3/14 (土) -3/20 (金) 東京・小金井・聖霊会

祈りの集い (午前10時～午後3時)

真命山の霊性

「聖母マリアと共に祈る」



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコロラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見
 — II 近世・近代・現代

「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
 [中世末期]

06/14,06/28,07/05,07/12,07/26,09/06,09/13,09/27,10/18,10/25,11/08,11/15,11/29,12/06,12/20,
 2015年 01/10,01/17,01/24,01/31,02/07

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
 どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

・「通う霊操」8月23日(土)～8月31日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
 6月14日、7月5日、8月16日、9月13日、10月18日、11月15日、12月6日、
 2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度

[関東]

2014年

10月11日(土)10時～12日(日)14時(東村山)

11月22日(土)10時～23日(日)14時(東村山)、

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

[関西]

10月4日(土)13時30分～5日(日)15時(宝塚)。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

06月20日(金)20時30分～22日(日)10時

08月08日(金)20時30分～15日(金)10時

09月19日(金)20時30分～23日(火)10時

10月31日(金)20時30分～11月3日(月)10時

[関西]

7月30日(水)17時45分～8月5日(火)15時、宝塚市。

●アガペ会

下記の日日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

6月28日(土)、10月25日(土)、2015年1月25日(日)

・黙想会(アガペ会会員対象)6月7日(土)10時～8日(日)14時(東村山)、1泊6,600円程度。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 06/06 内なる神— その「似姿」としての人間
06/13 新約聖書の神理解— 主なる父
06/20 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
06/27 救い主の役割— 人類の待望
07/04 神の国— イエスの告げるメッセージ
07/11 イエスの生き方— 神に遣わされて人に
仕える
07/18 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
07/25 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
07/26 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥ
ルハイム2階、80人限定)
08/01,15 ○休み
08/08 イエスは誰か— イエスの自己理解
(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/22 最後の晩餐— 自分を与えるイエス(上
智大学内クルトゥルハイム2階)
08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/29 イエスの受難— その史実と意図
(上智大学内クルトゥルハイム2階)
09/05 イエスの死— その救済的意義
09/12 聖書のイエス像— ヨハネとパウロの見た
イエス
09/19 イエスの復活— 今に生きるイエス
09/26 聖霊— 神の愛に導かれる
10/03 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関
わる
10/10 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
10/11-12 ●黙想会(東村山)
10/17 教会の成立と意味— イエスを中心に集
う
10/24 人間としてのイエス— 新しい人間像の基
礎づけ
10/31 御子としてのイエス— イエスの神との関
係

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [人間]
06/03 救いの歴史— 時間における意義
[神]
06/17 無限への問い— 理性による神理解
07/01 世界の根源— 創造的自由・進化・摂理
07/15 人生のうちに働く超越— 神経験の多様
な形
07/26 ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80
人限定)
7/29 「私は在る」— 旧約における神の自己啓
示と預言
08/05 ○休み
08/19 神の語りかけ— 「契約」と「救い主」の待
望(クルトゥルハイム2F)
08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)
09/02 将来の約束— 自立した世界の中の導
き
[イエス]
09/16 史的イエス— 活動と生き方の特徴
09/30 神の国— イエスの使信
10/07 根本たる愛— 律法の完成と克服
10/11-12 ●黙想会(東村山)
10/21 受難による救い— イエスの救済的役割
11/04 死からの命— 復活の認識・経験・理解

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

6月21日「ご聖体と祈り」
7月19日

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel： 077-579-7580

Fax： 077-579-3804

Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主よ、お話してください。僕は聞いております。
話される方である主

2014年度 第一回 召命黙想会

日時： 6月 14 日(土) 15:00~

15 日(日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院

(JR 京都駅から 30 分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000 円

締切： 2014 年 6 月 8 日(日)まで

<申込み・問い合わせ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr.桂川

Tel: 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email: Karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
日帰り フォロー アップ	6/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教 室(市ケ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
入門 C	7/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教 室(市ケ谷)	若山美知子※
サダナ I	7/18(金)17:30- 21(月)16:00	Fr ラフォント	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子 Tel 078-811-2706
霊操と I	8/17(金)17:30- 26(火)朝	Fr ラフォント	西日本霊性センター(長束黙想の家/広島市) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り フォロー アップ	9/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教 室(市ケ谷)	若山美知子※
サダナ I	9/12(金)17:30- 15(月)16:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ会 盛岡修道院	伊藤律子 Tel 090-4478-0088
サダナ II	9/19(金)17:30- 9/23(火)16:00	Fr植栗	那須・聖ヨゼフの家	若山美知子※
入門 A	9/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554



◆サダナ I (入門 A.B.C) 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II
Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

6月12日(木) 『靈魂の城』第6の住居・第4章
9月11日(木)、11月13日(木)

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

オリエンス・セミナー

題名：神の子供となること——カルメルの靈性に照らされて

日時：2014年6月19日（木）18:30より

場所：オリエンス宗教研究所図書室

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

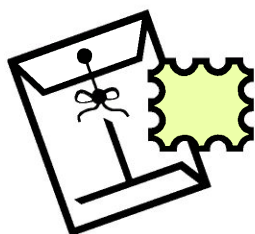
オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

* 何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



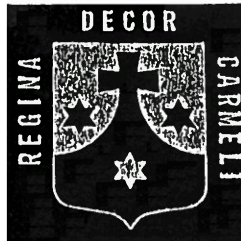
編集後記

43年前、ドイツへ留学した時、ドイツが鍵の文化であることに驚かされた。鍵、鍵、鍵で、いくつもの鍵を持ち歩くことになった。家に鍵などかけず、いつでもどこからでも出入りしていた日本とは大違いであった。鍵の生活にはすぐ慣れてしまったが、現在、良くも悪くも、日本も同じようになりつつある。

今私がいる修道院でも、泥棒や病気の人が入らないように、ドアのあるところ、いたるところに鍵をかけている。その心配がない時は、「空襲警報解除！」といった感じで、鍵がかかっていないことがある。そのため、先日、うっかり鍵をもたずに買い物に出かけた仲間の神父が、帰ってくるとまた鍵がかかっており、閉め出されてしまった。電話がかかり、私が3階から降りてゆき、玄関の扉を開けた。

夜は特に嚴重で、泥棒は「二十の扉」というほどではないが、いくつもの扉を開けなければならず、少なからぬ忍耐を要求されることになる。その意味では、防犯には役立つが、火災の場合は、どうか。鍵を開けている間に火の手が回り、逃げ遅れ、焼け死んでしまう可能性もある。鍵を握りしめながら… 合掌！

(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「7月号」製本日

6月24日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171